

天野統康のブログ 金融システムから見る経済社会論

政府が管理していたロシア帝国の銀行システム

ロシア帝国の銀行システム（通貨創造システム）は、政府が担っていた。

紙幣の発行を、民間が所有する中央銀行と民間銀行に独占させていた西欧とは違った通貨システムであった。ロシア帝国は政府が強力であったために、民間に通貨の発行を任せなかったようだ。

19世紀～ロシア革命までを通じて、ロシア帝国が国際金融勢力と険悪だった大きな理由のひとつだろう。以下はロシア帝国の銀行業の推移である。

（参考資料）帝政ロシアの銀行制度

国立貴族援助銀行および国立商業銀行

エリザヴェータ女帝の治世下の1754年に、2つの国有・国営銀行「国立貴族援助銀行」と「国立商業銀行」が設立された。

国立アシグナーツィア銀行

エカテリーナ二世の治世下の1768年に、アシグナーツィア紙幣の普及と銅貨への兌換のために、国立アシグナーツィア銀行がサンクトペテルブルグとモスクワに設立された（1843年に廃止）。

国立貸付銀行

廃止された国立貴族援助銀行に代って、貿易・農業の保護、地主貴族階級への貸付を目的として、元老院の付属として、1786年に「国立貸付銀行が設立された（1850年代末まで存続）。

国立商業銀行

1817年5月17日に、貿易および産業補助を目的とした国立商業銀行設立に関する布告が出され、翌1818年1月2日に国立商業銀行は開店した。

国立銀行の設立 – 1860年

1860年5月31日、「貿易を促進し、通貨を安定させる」ことを目的に、ロシアにおける中央銀行としての「国立銀行」が誕生した。

旧国立商業銀行が再組織された**国立銀行は、以前の信用機関と同様、政府の所有に属し、財務大臣の管轄下に置かれ、同大臣が一般的諸政策を指令したが**、銀行の直接的運営は、「総裁（親任官）」および理事会が管掌した。

1897年まで国立銀行に対して銀行券の発行を認めていなかった。

国立銀行は、使い古した紙幣の新しいものへの交換、紙幣の両替、金属貨幣への兌換などの義務を負っていたが、**兌換紙幣そのものは国庫が発行していた（国庫紙幣）。**

兌換券の発行権を持たなかった国立銀行に発行権が付与されるのは、1897年8月29日のことである。兌換券発行量は、法規に基づき、流通の必要によって厳重に制限された。

ロシアの商業銀行

国立銀行が1860年に設立されたことに続いて、1864年にはロシアで最初の株式商業銀行として、ペテルブルグ商業銀行が設立され（創立当時の資本金は200万ルーブル、まもなく500万ルーブルまで増資された）、その後の5年間に5つの株式商業銀行が設立された。